

現計画

基本目標: ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティーの醸成でつくる心豊かな県民生活と活力ある千葉県

基本的な考え方

- ◎策定の趣旨
本県文化の現状や県民ニーズを踏まえ、文化振興施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、文化振興の基本的な方向や施策に関する事項を定める。
- ◎位置付け
総合計画を踏まえ、中長期的な視点に立ち、本県の文化振興施策の方向性を定めるもの。
- ◎施策の体系
5つの柱(施策の方向) → 21の施策の展開
- ◎計画の期間
平成23年度から平成27年度の5年間

施策の方向	施策の展開	取組状況 (総合計画の進行管理票より)	平成22年度実績値	平成26年度実績値
(1) 文化芸術活動を支えるための仕組みづくり	① 県民の自主的な文化芸術活動の促進	千葉・県民芸術祭参加数	70,347人	39,402人
	② 文化芸術団体への支援	千葉・県民芸術祭実施事業数	28事業	28事業
	③ 文化のネットワークの構築	芸術文化団体加入者数	127,915人	115,517人
	④ 「ちば文化」を担うひとづくりの推進	文化芸術に関する情報交換・意見交換会の開催回数	(24年度) 3回	4回
	⑤ 企業メセナ等による支援の促進	文化ボランティア登録件数	59件	53件
	⑥ 文化財の保存整備の支援			
	⑦ 顕彰の実施			
(2) 文化にふれ親しむ環境づくり	⑧ 優れた芸術鑑賞機会の充実	県立文化会館の入場者数	736,404人	839,938人
	⑨ 子どもたちの文化芸術活動の充実	学校における音楽鑑賞・県民芸術劇場公演事業開催	92件	92件
	⑩ 若者の文化芸術活動の支援	(若者の文化芸術活動支援)	(24年度) 3件	4件
	⑪ 高齢者・障害者等の文化芸術活動機会の充実	(特別支援学校巡回コンサート開催回数)	13回	13回
	⑫ 学校教育における文化芸術活動の充実	出土文化財活用事業件数(「土器」と古代「宅配便」事業)	127件	127件
⑬ 県立文化施設の機能の充実	美術館・博物館入場者数	970,702人	909,805人	
(3) 文化資源を活用した地域の活性化	⑭ 文化資源の活用と地域の活性化	文化資源情報の提供件数	(24年度) 3,483件	3,694件
	⑮ 文化的景観等の保全・活用	文化財探検隊の実施回数	3回	2回
(4) 伝統文化の保存・継承	⑯ 伝統文化の保存と担い手の育成	房総の郷土芸能の参加者数	(24年度) 819人	939人
	⑰ 伝統文化にふれる機会の提供	美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数	(24年度) 1,370人	1,888人
	⑱ 青少年への伝統文化の継承	伝統芸能継承者育成事業の参加者数	497人	118人
(5) 「ちば文化」の魅力発信	⑲ 「ちば文化」の魅力の発掘と情報の収集・提供	ちば文化交流ボックスへのアクセス件数	219,827件	380,407件
	⑳ 文化発信拠点としての県立文化施設の充実	県民の日賛同行事の実施件数	314件	337件
	㉑ 「ちば文化」の魅力を発信する文化事業の充実	県民の日地域行事の実施件数	(23年度) 11件	11件

指標: 芸術や文化に親しむ機会に満足している県民の割合
目標: 平成28年度 28% 平成22年度 23.1% ⇒ 平成26年度 22.4%

次期計画に向けて

【国の動き】

- ◎文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針)(平成27年5月)
 - <文化芸術立国へ求められること>
 - 日本の文化財や伝統等を維持、継承、発展、国内外への発信を更に強化
 - 教育、福祉、まちづくり、観光・産業等幅広い分野との関連の強化
 - <諸情勢の変化を踏まえた対応>
 - 地方創生:文化芸術等を地域資源として活用し、起爆剤として地方創生を実現する。
 - オリンピック・パラリンピック:文化プログラム実施により、文化や魅力を発信するとともに、機運を醸成し、2020年東京大会を契機とする社会モデルを構築。
- ◎文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想(平成27年7月)
 - 史上最大規模の文化プログラム
 - 全国津々浦々で魅力ある文化プログラムを展開
 - 2020年東京大会後を見据えたプログラム
- ◎劇場、音楽堂の活性化に関する法律(平成24年6月)制定
 - 地域の特性に応じた施策の策定
 - 劇場等の積極的な活用

【県の平成26年度世論調査より】

- 子ども・青少年が文化芸術に親しむ機会の充実が求められている。
- 地域の芸術や祭りなどの継承・保存が求められている。
- 地域文化・文化芸術に関する情報提供がより一層求められている。

現状と課題

<鑑賞・参加・創造の機会の提供>

文化芸術の振興にあたって、文化芸術活動を行う者の自主性や創造性が十分尊重されるとともに、いつでもどこでもだれでも等しく文化芸術を鑑賞し、参加し、創造することができるような機会の提供が必要であり、特に、子ども・青少年が文化芸術に親しむ機会の充実が求められている。

【現状】

- ・「千葉・県民芸術祭」の入場者数はおおむね横ばいである。
- ・市町村で実施している市民文化祭等の状況も含め、県民が文化芸術に接する機会を把握することが求められる。
- ・県芸術文化団体協議会の加盟団体の会員数はおおむね横ばい

イメージ

文化芸術活動の機会の提供・文化芸術活動の裾野を広げる
↓
文化芸術の創造活動が盛んになる
↓
継続し発展することで、地域の文化資源となる

<伝統文化等の保存・継承・活用>

地域の芸術や祭りなどの継承・保存が求められていることから、地域文化や伝統文化にふれる機会を提供するとともに、担い手を育成し、次世代へ継承していくことが必要である。また、保存・継承のみならず、ちばの文化資源を活用し、地域の活性化につなげる必要がある。

【現状】

- ・伝統芸能の継承者が減少している。
- ・子ども・青少年への伝統文化の継承を充実していくことが期待されている。
- ・文化資源については、活用に関する情報発信や県内外の地域間交流により、文化資源をまちづくりや観光振興に活用することが期待されている。

地域文化や伝統文化を広く知ってもらう
↓
地域の誇りとして再認識
↓
アイデンティティーの醸成
.....
担い手育成
↓
未来につながる文化資源

<多様な文化芸術の発展・発信>

多様な文化芸術は、新たなちば文化を創造する可能性を秘めており、その発展を図ることが大切である。また、地域文化・文化芸術に関する情報提供がより一層求められていることから、さらなる情報収集・提供に取り組むとともに、ちば文化の魅力発信する文化事業を充実する。

【現状】

- ・若者を中心に既存文化にとらわれない活動等、芸術文化活動が多様化している。
- ・県民の日行事等で「もっと千葉のことが知りたい」などの声が多数ある。地域行事との連携等を維持し、千葉の魅力発信し続けていくことが求められている。

多様な文化芸術の発展
↓
新たなちば文化⇒文化資源
.....
ちばの文化資源＝「ちば文化」の魅力発信
↓
地域の魅力を再認識

<文化芸術活動の支援・連携>

文化芸術の多様化に伴い、新たな支援体制の構築、関係団体や国・市町村などの一層の連携、さらに観光・産業等の幅広い分野との連携が必要である。また、文化芸術振興のための体制の整備として、文化施設の機能充実が必要である。

【現状】

- ・県立文化会館の入場者数は増加している。
- ・県立美術館・博物館の入場者は、概ね横ばい。
- ・市町村立・私立の文化施設も含めた取組を把握する必要がある。
- ・若者を中心とした既存文化にとらわれない活動を把握し、支援していく仕組みを構築していく必要がある。

ひとづくり
ネットワーク構築
支援の構築
文化施設の機能充実
↓
安定した文化芸術活動
↓
文化資源の安定的な展開

<地方創生の実現・オリパラに向けて>

文化資源を活用して地方創生の実現を図る。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会において、国は史上最大規模の文化プログラムを実施することとしている。本県においても、積極的に文化プログラムを展開し、本県の文化振興を図る。

【現状】

- ・文化芸術を活用し、起爆剤として地方創生を実現
- ・文化プログラムの実施により、文化や魅力を発信

ちばの文化資源を活用
↓
地方創生を実現
.....
オリパラ文化プログラム実施に向けたさまざまな取組
↓
2020年以降の「ちば文化」の創造へ